

2026 年オハイオ州立大学実習

放射線治療科

医学部 6 年 211018 大屋結莉

1. 留学の動機

私は、将来どの診療科に進む場合でも、がん診療に関する知識は医師として重要であると考えています。特に放射線治療は、手術や薬物療法と並ぶがん治療の大きな柱でありながら、臨床実習の中で詳しく学ぶ機会が限られていたため、以前から興味を持っていました。

また、放射線治療では、画像診断、腫瘍の進展範囲の評価、正常組織への影響、治療後の生活の質など、医学的知識を総合的に用いて治療方針を考える必要があります。その点に、非常に奥深さを感じていました。

今回、オハイオ州立大学という先進的な医療・研究環境で、実際の放射線治療の現場を見学できる機会をいただき、日本との医療体制や多職種連携の違いを学びたいと考え、本プログラムに参加しました。さらに、現地の医師や研究者との交流を通して、医学英語で学ぶ力を高め、自分の視野を広げたいと考えました。

2. 留学先について

オハイオ州立大学（The Ohio State University）は、アメリカ・オハイオ州コロンバスに位置する総合大学です。附属病院である The James Cancer Hospital は全米でも有数のがん専門病院として知られています。また、広大なキャンパスには図書館や博物館、アメリカンフットボールスタジアムなどがあり、教育・研究環境が非常に充実していました。

3. 実習内容

月曜日 オリエンテーション・放射線治療部門見学・Medical Physics 見学

実習初日はオリエンテーションの後、放射線治療部門の見学を行いました。施設内では、リニアックや CT シミュレータなどの設備について説明を受け、患者さんが治療を開始するまでの流れや、安全に治療を行うための体制について学びました。

その後、Medical Physics 部門を見学しました。医療物理士が治療計画の作成や機器の品質管理を担い、安全で精度の高い放射線治療を支えていることを知りました。日本では医療物理士と接する機会が多くなかったため、その専門性の高さや役割の重要性を実感しました。また、医師だけでなく多職種が密接に連携することで、高品質ながん医療が提供されていることが印象に残りました。



火曜日 外来見学

火曜日は放射線治療科の外来を見学しました。診察では、患者さんの病状や画像検査、治療経過を踏まえながら、一人ひとりに適した治療方針について丁寧に説明しており、患者さんとのコミュニケーションを大切にしている様子が印象的でした。

また、治療による副作用や生活上の不安についても患者さんと十分に話し合いながら診療が進められており、患者中心の医療が実践されていることを実感しました。さらに、診察後には患者さんごとに治療内容や経過を多職種で共有し、連携しながら診療を進めている様子を見学し、チーム医療の重要性を学びました。

一方で、英語による診療内容や専門用語を十分に理解できない場面もあり、自身の医学英語の力不足を実感しました。今後は英語力をさらに向上させ、海外でも積極的に学べるよう努力したいと感じました。

水曜日 治療計画・IMRT・VMAT・線量計画

水曜日は放射線治療計画の作成過程を見学しました。CT画像上で腫瘍や正常臓器を描出し、それぞれに適切な線量を設定する過程について説明を受けました。

また、IMRT（強度変調放射線治療）やVMAT（強度変調回転放射線治療）の治療計画について学びました。腫瘍には十分な線量を照射しながら、正常組織への被ばくを最小限に抑えるために、線量分布を細かく調整していることが非常に印象的でした。放射線治療は単に装置で照射するだけではなく、医師、医療物理士、線量計算担当者など多職種が協力しながら綿密な治療計画を作成していることを学び、高精度放射線治療を支えるチーム医療の重要性を改めて実感しました。



木曜日 日本人研究者との交流・先進的な放射線治療技術の見学

木曜日は、オハイオ州立大学で研究を行っている日本人の先生から、留学生活や研究内容についてお話を伺いました。海外で研究を行うことになった経緯や、研究と臨床を両立する生活、英語で仕事をする上で大切なことなど、実体験に基づいたお話を聞くことができました。留学前には漠然としていた海外で学ぶことへのイメージが具体的になり、自分自身の将来について考える大変貴重な機会となりました。

金曜日 キャンパスツアー・Farewell Lunch

金曜日は、オハイオ州立大学のキャンパスツアーに参加しました。まず、アメリカンフットボールの本拠地である Ohio Stadium を訪れ、その規模の大きさに圧倒されました。続いて Thompson Library を見学し、開放的で学習環境の整った図書館や、日本語の書籍も所蔵されていることに驚きました。

キャンパスツアー後には、事務スタッフの Jill さんをはじめとする先生方との Farewell Lunch に参加しました。昼食を囲みながら留学生活を振り返り、医療のことだけでなく学生生活や文化についても交流することができました。短期間ではありましたが、多くの先生方やスタッフの温かさに触れ、非常に充実した留学生活であったことを改めて実感しました。



土曜日 Grecula 先生宅訪問・カヤック体験

土曜日は、Grecula 先生のご自宅に招待していただきました。湖ではカヤックを体験し、美しい自然の中で先生方やご家族と交流する貴重な時間を過ごしました。

その後の夕食会では、先生方や研究者の方々と食事をしながら、研究や医療だけでなく日常生活や文化についてもお話を伺うことができました。アメリカならではの家庭的な雰囲気の中で交流できたことは非常に印象深く、病院での実習だけでは得られない貴重な経験となりました。

また、このような温かいおもてなしを受けたことで、国や文化が異なっても人とのつながりの大切さは共通していることを実感し、今回の留学で最も心に残る思い出の一つとなり

ました。

4. 留学中の生活

留学期間中は、大学から徒歩約 15 分の Airbnb に宿泊し、福島県立医科大学の学生 6 名で共同生活を送りました。食事はスーパーで食材を購入して自炊をしたり、大学周辺のレストランを利用したりして過ごしました。移動には主に Uber を利用し、日本との交通システムの違いも体験することができました。

5. 留学を通して学んだこと

今回の留学を通して、放射線治療に関する専門知識だけでなく、アメリカの医療体制や教育環境、多職種連携について学ぶことができました。特に、医師だけでなく医療物理士や線量計算担当者など、多くの専門職が連携して一人の患者さんの治療を支えていることが強く印象に残りました。

また、AI や Adaptive Radiotherapy などの最新技術が実際の臨床に導入されている様子を見学し、放射線治療が今後も大きく発展していく分野であることを実感しました。一方で、専門的な英語による説明や議論を十分に理解できない場面もあり、自身の医学英語力の不足を痛感しました。

さらに、現地の先生方や研究者、スタッフの皆様との交流を通して、国や文化が異なっても、患者さんにより良い医療を提供したいという思いは共通していることを実感しました。今回の経験を今後の医学学習や臨床実習に生かすとともに、英語力の向上にも継続して取り組み、将来的には国際的な視野を持った医師を目指したいと考えています。

6. 謝辞

今回、このような貴重な留学の機会をいただきました福島県立医科大学放射線医学講座の先生方、ならびに温かく受け入れてくださったオハイオ州立大学放射線腫瘍学講座の先生方、スタッフの皆様にご心より感謝申し上げます。

短い期間ではありましたが、最先端の放射線治療や研究に触れるだけでなく、多くの方々との交流を通して、自身の視野を大きく広げることができました。この経験を今後の医学学習や臨床に生かし、患者さんにより良い医療を提供できる医師を目指して努力していきたいと思っています。